第17. その他（水産業関連取組事例）

（1）日高管内漁業士会の活動

地域漁業の振興にあたり、将来的に漁村地域の中核となり得る青年漁業者、また、漁村青少年の育成などに指導的な役割を果たしている全道の各漁業者に対して、北海道知事より「北海道漁業士」としての称号を付与しています。現在、日高管内には１６名の漁業士がおり、日高管内漁業士会として、地域の活性化、漁業の振興を目的に活動を行っています。

平成29年から引き続き、平成30年も札幌市内北海道農業近代化技術研究センターで「日高産水産物の直売会～日高の浜から届け隊～」を開催し、管内水産物や加工品のPR販売しました。この日のために獲ったまつかわ、たこなどの活魚をはじめ、さけなどの加工品、日高こんぶやふのりなどの乾燥品を、日高地区漁協青年部と女性部、漁業士会の三連合同で組織される「日高の浜から届け隊」が栄養面や調理法などを説明しながら販売しました。終了時には多くの商品が完売するほど大盛況でした。

※ イベントの様子

日高町で開催される日高「秋」の味覚フェアに水産物直販店を出店し、水産物の魅力発信、管内水産物の消費拡大と魚食普及を図る目的で開催しました。管内漁協の協力を得て、たこ、まつかわなどの活魚、さけ燻製やたこ足など日高管内の特産品を用意し、対面販売を行いました。

さけ燻製等の加工品は、開店早々に完売するなど、用意したすべての商品が完売するほどの大盛況ぶりでした。また、普段眼にすることの少ない「活だこ」の茹で方について、漁業士の説明を熱心に聞き入る家族連れの姿が見られました。

※ イベントの様子

日高管内漁業士会は、今後もこうした活動を継続し地域を盛り上げていきます。

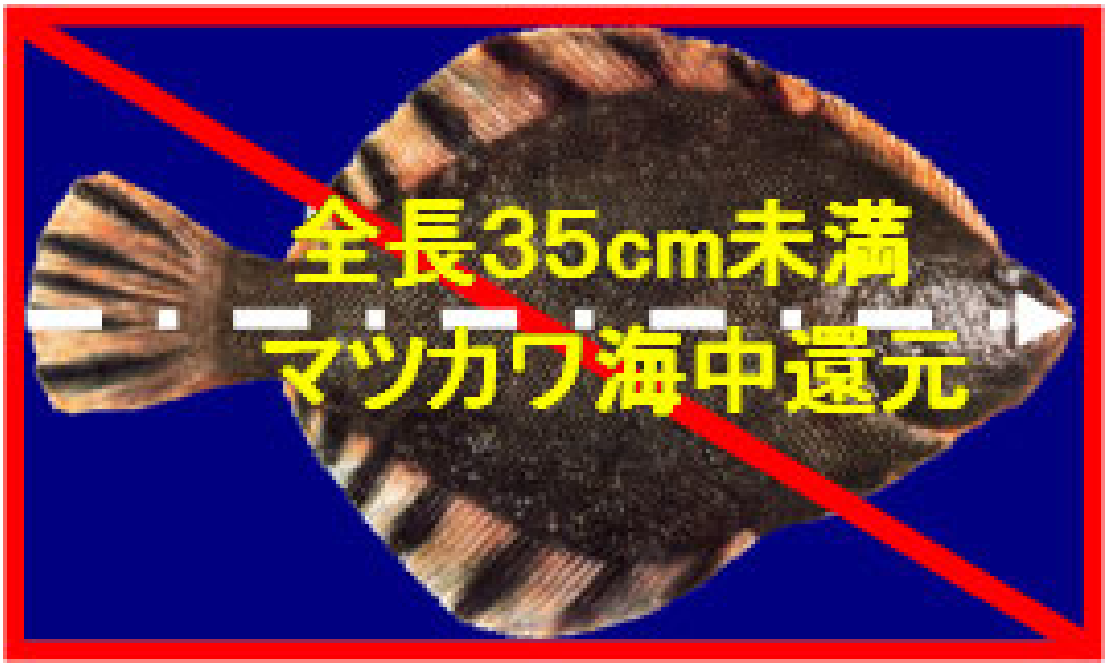
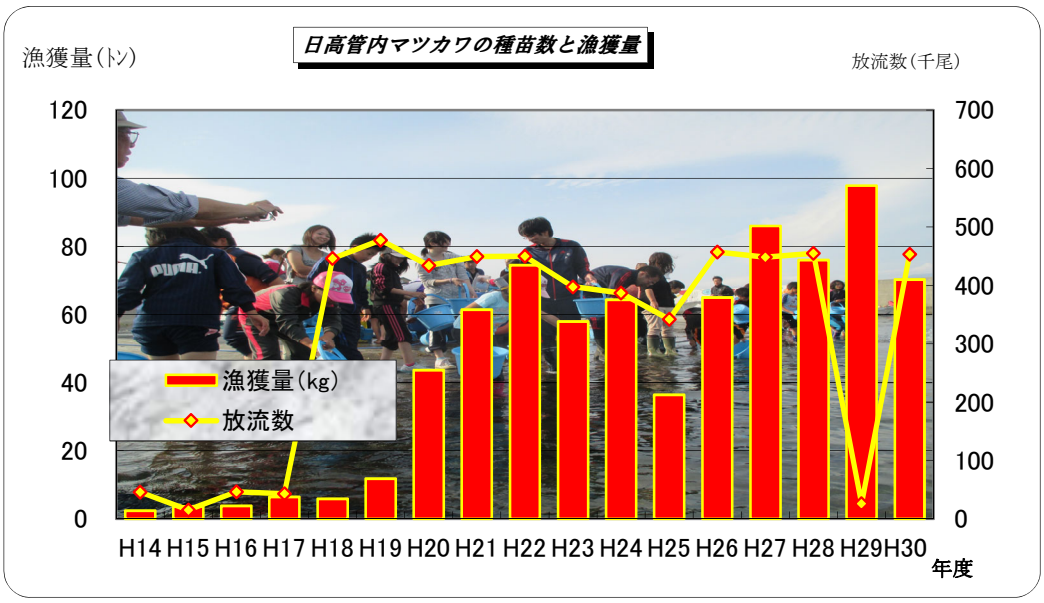
（2）王鰈（マツカワ）

当管内では、平成５年から試験的に種苗放流が開始され、放流数の増加に伴って漁獲も右肩上がりとなっています。

平成18年には北海道栽培漁業拠点センター（伊達市、えりも町）の供用が開始され、えりも町から函館市南茅部までのえりも以西太平洋海域では100万尾の種苗放流を行い、150ｔの資源造成を図る計画となっており、うち当管内各地より2.6万尾（平成29年度実績・標識及びイベント含む）が放流されました。

≪マツカワ資源管理≫

マツカワの資源造成を図る上で、放流後のマツカワ稚魚を適切に保護・管理・育成するため、函館市からえりも以西の太平洋海域において、「全長35cm未満のマツカワの海中還元」を主な内容とした海区漁業調整委員会指示が発動され、漁業者はもとより遊漁者も対象とした資源造成に取り組んでいます。



全長35cm未満のマツカワを採捕した時は、速やかに海中へ戻して下さい。